



SESERAGI-MISHIMA
ROTARY CLUB
WEEKLY REPORT

クラブ
週報

2011~2012年度 RI会長 カルヤン・パネルジー
RIテーマ REACH WITHIN TO EMBRACE HUMANITY ころの中を見つめよう、博愛を広げるために

クラブテーマ「会員同志の職業を理解し出来ることはし助け合おう」会長 渡邊照芳
副会長 太田政人 幹事 山田定男

事務所 三島市中央町4-9 小野住理中央町ビル2F
TEL. 055-976-6351 FAX. 055-976-6352

<http://www.seseragi-mishima-rc.gr.jp>

せせらぎ三島ロータリークラブ 検索

例会場 ブケ東海三島

TEL.055-984-0120
毎週金曜日 第1・第3 夜間例会

第1070回 例会
2011.12.02

司会:久保栄子君 指揮:石井和郎君
ロータリーソング「奉仕の理想」

会長挨拶

会長 渡邊照芳君



本日は、杉山隆君の職業紹介をさせていただきます。杉山君は、長泉町竹原で、看板製作業「アートサイン・スギヤマ」という会社の代表をやっており、

店舗・企業の看板-字・絵を書く仕事は、何でもやっております。又近年は、クリスマスのイルミネーションの企画制作等も行っております。この仕事に入ったきっかけは、絵が好きで、趣味でイラストを壁などに書いており、(ストリートアート)その材料を買っていた店が看板業をやっており、好きな絵を描くのが商売になるのならと、その店に勤めたのが、この世界に入るきっかけになったそうです。それが今から30年前である。

それから約9年その店で修業し、32歳で独立し東京から地元に戻ってきました。独立し始めたころは、デザインの良し悪しで発注してくれましたが、最近では単価が安ければと良いお客さんが多くなってきました。この仕事は、ある程度経験がなければ仕事をまかせられないし、お客様との信頼関係も生れない。そんな中で以前10名のスタッフが相次いで辞めてしまった事がある。それぞれが色々な理由があったがそのときは非常につらかった。

仕事を始めたころは、多くの看板は目立つことが一番と思って作ってきたが、これからは質を重視し、環境にマッチした看板を作っていくか。それには個々ではなかなか出来ない。行政とも協力し、その地域の景観に合った統一性のある看板を作っていくと言っていました。

自分は、今までわき目もふらず「まっしぐら」にやってきました。これからは不器用でもいいから一生懸命に生きていきたいと言っていました。

杉山君の会社案内の中の作品集を見せてもらい、感心したのは、看板は芸術だと思いました。描かれた

文字・絵を見、その会社の品物をどの様に想像させるか、先ほどの話のなかにもありましたが、ただ目立てば良いのではなく、質を重視した看板作りをしている職人だと感じました。

これからもケガをしない程度に「まっしぐら」にやってください。

ようこそせせらぎ三島
ロータリークラブへ

鈴木啓司さん(三島市政策企画課)
前田耕作さん(三島市政策企画課)

出席報告

	出席総数	出席率	メイクアップ	修正出席率
前々回	29/35	82.86%	30/35	85.71%
今回	24/34	70.59%	会員総数	35名
欠席者	あなたが見えなくて残念でした。			

内田君、遠藤君、大房君、片野君、小島君、田中君、土屋君、望月君、山口(雅)君、山本(良)君

幹事報告

幹事 山田定男君

1. 本日よりクリスマス家族会の出席をとらせていただきます。合わせて1月6日(金)の4クラブ合同新年会の出欠もお願いします。この日は当クラブがホストで開催するため、出席をお願いいたします。

おめでとう

会員誕生日 12月5日 杉山 隆君



スマイルボックス

山口辰哉君:先日は、母の通夜・葬儀では大変お世話になりました。分かりにくい場所でご迷惑をおかけしたと思います。本来、修善寺の人間ですから、修禅寺に墓地の権利を持っていたのですが、山の中にあり歩いていくしかないところ、父も私もましてやどこに住むかもわからない孫たちにとっては「そういえば墓参りをしていないな…」みたいな状態になることは目に見えています。そこで思い切って同じ曹洞宗である蔵春院に墓を求めたわけです。あそこならば墓のそばまで車でいける。住職は広小路の常林寺の三男で高校の同級生、後を継ぐ息子も子供のころから知っているという幸運もありました。いろいろお世話になり、ありがとうございました。

震災復興委員会:だいぶ前になりますが、JUNにて開催しました委員会の残金をスマイルいたします。

中村 徹君:43才の社労士さんですが、当クラブ入会希望者です。本日理事会で審査下さい。よろしく願います。

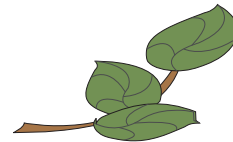
杉山 隆君:本日は会長より、私の職業紹介をしていただけたとの事で、ありがとうございます。これでまた、仕事の受注が増えることと喜んでおります。

年次総会

1.ロータリークラブ定款第6条第2節
役員を選挙するための年次総会は、細則の定めるところに従い、毎年12月31日までに、開催しなければならない。

2.せせらぎ三島ロータリークラブ細則第5条第1節
本クラブの年次総会は、毎年12月の第一例会日に、開催されるものとする。年次総会において、次年度の役員及び理事の選挙を行わなければならない。

3.せせらぎ三島ロータリークラブ内部規約第2条
役員選出方法は、先週会長一任により指名委員を選出させていただき、指名委員会を開催致しました。その結果、次年度会長に太田政人君・副会長山本良一君・幹事石井司人君・会計石井邦夫君以上の方を指名させていただきました。皆様方の賛同を頂けますでしょうか。ありがとうございました。



理事会報告

第6回理事・役員会議事録

出席者 渡邊 山田 矢岸 山口(辰) 兼子
太田 中山 根津 山本(章) 米山 石井(司)

①4クラブ合同新年会の件

1月6日(金)に開催決定。

内容説明を米山晴敏君より受ける。

②新入会員の件

中村君の紹介で渡辺労務事務所の遠藤ノブヒロ様が入会希望。了承。

③米山委員任命の件

本年度、矢岸会員、石井邦夫会員の留任で決定。

PHOTO GALLERY



せせらぎロータリークラブ年次総会 平成23年12月2日(金)

東日本大震災被災地の状況について
【岩手県下閉伊郡山田町】

- 派遣期間 平成23年7月～10月
- 所属課 山田町 建設課
- 業務内容 応急仮設住宅の事務

三島市政策企画課 鈴木啓司

内容の構成

- 1 山田町の概要と被災状況
- 2 災害対策本部と被災者支援
- 3 青少年への影響・支援
- 4 住民の災害対応
- 5 復興計画と現在の山田町

山田町の人口・面積

	平成23年		増減数
	3月1日	11月1日	
人口	19,270名	17,705名	△1,565名
世帯数	7,182世帯	6,796世帯	△386世帯
高齢化率	30%		
面積	263.45km ² (三島市の4.2倍)		

主な産業



カキ、ホタテなどの水産業、マツタケ

役場庁舎



地震・津波の規模

地震発生 3月11日(金)午後2時46分
役場 震度5弱
(被害ほとんどなし)

津波到達 午後3時20分頃～
山田地区(役場) 12m
船越地区 23m
～潮位計(8m)を超えたため推計値～

被災者状況(11月28日公表)

○死者・行方不明者数
743人(人口の3.8%)

○住宅

全壊	大規模半壊	半壊	一部損壊	被災家屋	
				家屋数	割合
2,762	202	203	175	3,342	55.5%

※山間部の地区及び非住宅は含まず。

津波による被災状況(役場前)



3月11日夕方

仮設住宅の現状の課題

- ①4畳半に2人では狭い→追加部屋の要望
- ②4分の1が1人暮らしの高齢者→サポート必要
- ③コミュニティの形成、復活
- ④寒さ対策(断熱工事、ストーブ・コタツの支給)

ボランティア活動の留意点

(4月)

個人	団体		合計
	団体数	人数	
1092人	135団体	929人	2021人

- ① 被災された人の気持ちに配慮した行動
→言動(被災地→地名、ガレキ→自宅、ごみ→家財)
- ② 被災地の写真をむやみに撮らない
- ③ 個人ではなく、5人以上の団体(自治体などの募集による個人参加を含む。)での参加
- ④ その時のニーズに合ったボランティアの活動に柔軟に対応すること

小中学校の被災状況

学校数	人数	被災状況
中学校 (2校)	626人	【校舎】 ・船越小学校(176人) 全壊 校舎2階、体育館が浸水 ・山田北小学校グラウンドが浸水
小学校 (9校)	1,027人	【児童・生徒】 ・学校で死亡した子どもはいない ・地震発生直後に親が子どもを強制的に迎え →避難途中で親子が被災
合計	1,653人	

青少年への影響

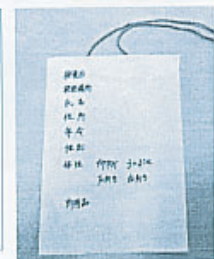
- ① 精神的なダメージが非常に大きい
→親・家族が亡くなる、自宅・思い出の品・勉強・スポーツ用具が流される
- ② 仮設住宅での生活→勉強スペースの制限
(1部屋4畳半の2DKに4人)
- ③ 被災した船越小学校
→移転した仮設の学校(青少年の家)に通学
- ④ 学校に仮設住宅が建っており、グラウンドが制限

災害対応のポイント

- ① 避難警報(津波の規模、その他の危険性)を多くの住民に早く、正確に伝えること
→津波を見に行ったら漁師、若者が被災
- ② 避難所は孤立を前提に考えること(道路寸断)
→3日分の食料、衣類等は各自確保
- ③ 防災訓練に積極的に参加すること
→参加者は多くが助かっていた
- ④ 学校と保護者の信頼関係を築くこと

住民との連携

- ① 地域の密着性が重要
安否不明者名簿の作成に不可欠
- ② 消防団員による消火、救済、捜索(長期間)
- ③ 避難所の運営



復興支援に必要なこと

- ① 現在、被災者は仮設住宅に入居済
→生活物資・食料は不足していない(経済的支援は別)
- ② 地場産業を後押しするような行動
→旅行に行く、被災地のものを購入
- ③ 情報発信の手助け
→被災地HPをリンク、パンフレットの配布
- ④ 人的支援(ボランティア、職員派遣、企業など)

スケジュール

- 平成23年12月 復興計画決定
平成23~25年(概ね3年間)
まちづくりの基礎となる土地や基盤施設の再整備、各種活動の始動
平成26~29年(概ね4年間)
新たな土地への建設開始と各種活動の本格始動
平成30~32年(概ね3年間)
町の熟成化と広域的な連携による各種活動拡大